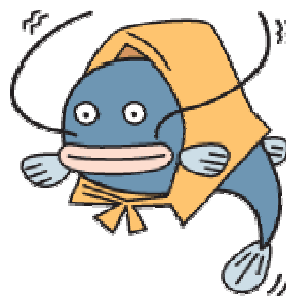


緊急地震速報 なまずきん



マンスリー レポート
2007年10月号

発行元 株式会社 ハレックス

〜〜〜 なまずきんの働き (2007年9月) 〜〜〜

【発信数概要】

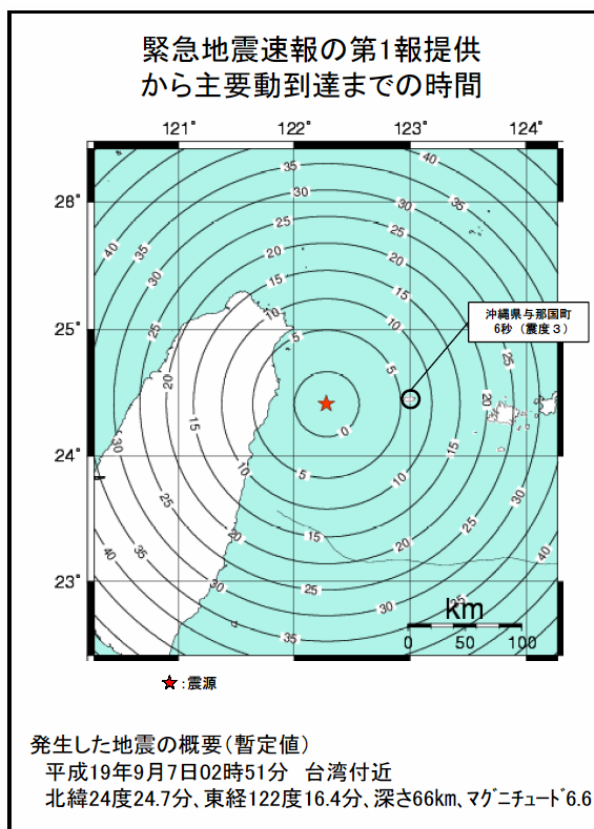
緊急地震速報（速報）が 43 個の地震に対し発信され、総数は 250 通でした。昨年 8 月に先行運用が始まってからのデータと比較しますと、地震数、発信総数ともに約 65% とかなり少数でした。

また、推定震度 4 以上報じた地震数も 5 個と少なめでした。

【台湾付近の地震】

7日21時51分26.7秒、台湾付近にM6.6の地震が発生し、緊急地震速報が第11報まで発信されました。このうち第5報までは震源の深さが30kmより浅く、マグニチュードの推定も不安定だったこともあり、速報最大震度は3から震度5弱と揺れ動きましたが、第6報以降は震源の深さが50～60km、推定マグニチュードも6.3～6.4となったため、速報最大震度は最終報まで4と一定の値となりました。

台湾付近の地震は、地震観測網からはずれているため、最も近い観測点で地震波が検知されるまで地震発生から14秒も要しています。また、精度の良い第6報を発信するまでにはさらに15秒を要していますが、これは緊急地震速報の限界の一つといえます。



気象庁資料より

震度4以上を発信または観測した地震(2007年9月)

日	時分	地域名	深さ (km)	マグニ チュード	速報 発信数	速報最大震度 (最終報震度)	観測最大震度 (地点数)
7	02:51	台湾付近	66	M6.6	11	5-(4)	3(2)
17	14:58	静岡県西部	13	M3.4	8	4(4)	3(1)
21	13:21	静岡県西部	13	M3.9	8	4(4)	4(2)
22	17:00	宮古島近海	48	M5.1	9	4(4)	4(11)
24	17:12	天草灘	14	M4.1	11	4(3)	3(15)

11月の被害地震

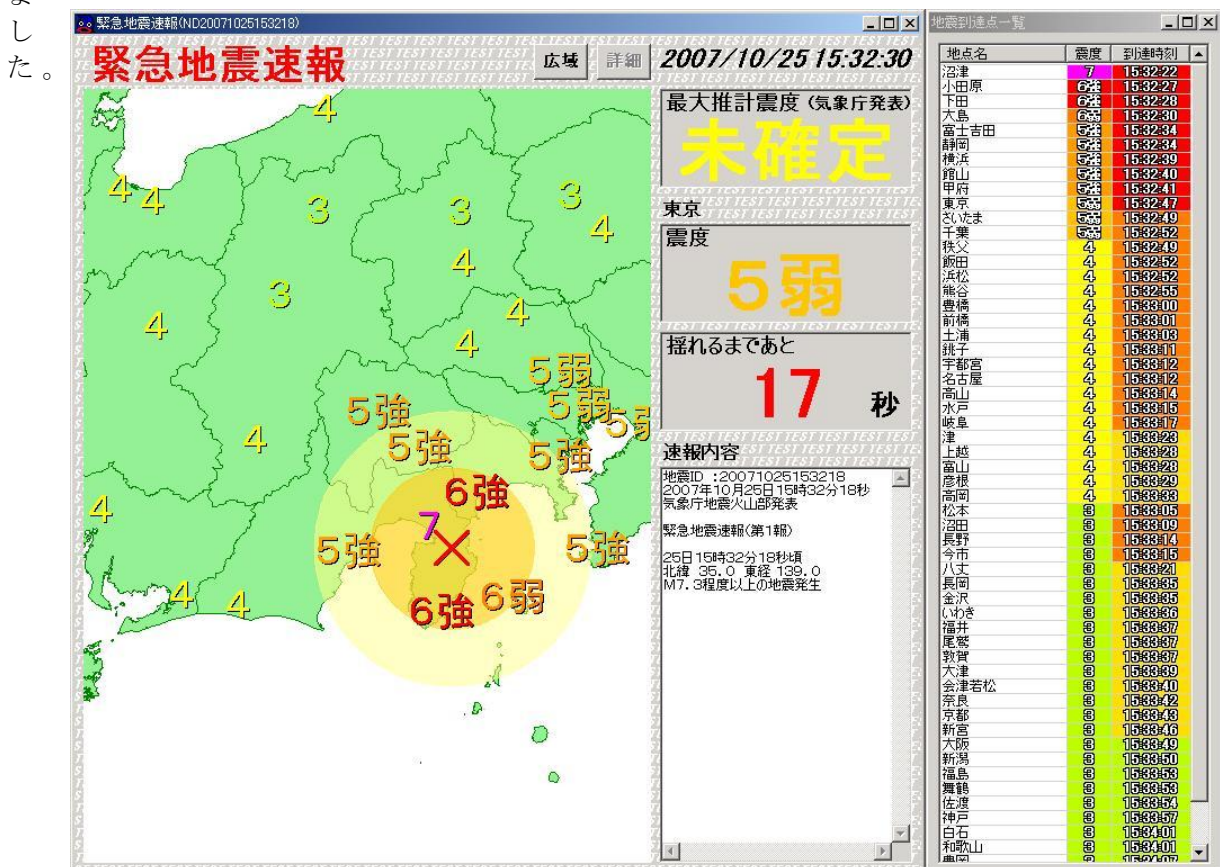
発生日	発成年	北緯(度)	東経(度)	M	地震名または震央地名	死者数	最大震度
2日	昭和6年(1931年)	32.3	132.6	7.1	宮崎県沖	1	5**
5日	昭和13年(1938年)	37.3	142.2	7.5	福島県沖	1	5**
10日	明治42年(1909年)	32.3	131.1	7.6	宮崎県西部	2	5**
19日	昭和16年(1941年)	32.0	132.1	7.2	日向灘地震	2	5**
26日	昭和5年(1930年)	35.0	139.0	7.3	北伊豆地震	272	6**

明治以降に死者・行方不明者を出した地震・津波および気象庁が命名した地震
 最大震度は、0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7の10階級。【平成8年(1996年以降)ただし、
 * 0から7の8階級 【昭和24年(1949年)～平成8年(1966年)】
 ** 0から6の7階級 【明治31年(1898年)～昭和23年(1948年)】
 *** 微、弱、強、烈の4段階 【明治17年(1884年)～明治30年(1907年)】で、
 それぞれ現在の震度の1、2～3、4、5以上に相当

1. 北伊豆地震

伊豆半島北部で発生した内陸型の地震で、長さ35kmにわたり、最大水平変位3.5mの地震断層(丹那断層)が出現、当時、掘削中のトンネルに食い違いを生じさせました。また、地震に際して、空中で異様な光物を見たという報告が多くありまし

被害は、伊豆半島の北部で著しく、震央付近の静岡県を中心に、死者272名のほか、全壊家屋や山崩れ、崖崩れを多く生じさせました。



“なまぎん”によるシミュレーション
 震央付近では一部震度7と推定される地域があるほか、伊豆半島では震度6強・6弱、東京でも震度5弱と推定されています。